

第24回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会会議録	
議題	<p>審議事項</p> <p>議事1 第12回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議）</p> <p>審議事項1：スケジュールについて</p> <p>審議事項2：選考方法について</p> <p>審議事項3：リーフレット・ポスター・デザイン（案）について</p> <p>議事2 その他</p>
日時	令和6年11月29日（金）午後3時00分から午後4時02分まで
開催場所	横浜市役所 18階 なみき9～12
出席委員（敬称略）	真田純子、青木祐介、鴨下香苗、三輪律江
欠席委員（敬称略）	加藤光雄
出席した幹事・書記	書記：古檜山匡和（都市整備局地域まちづくり部長） 光田 麻乃（都市整備局企画部都市デザイン室長） 立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関係者	議事1：新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）
開催形態	公開（傍聴者1名）
決定事項	【議事1】応募数を増やすための広報の仕方やリーフレット・ポスター・デザイン、また、選考方法について、ご意見をもとに検討する。
議事	<p>1 開会</p> <p>（立石書記）</p> <p>部会の成立についてですが、本日は加藤委員からご欠席の連絡を頂いております。委員5名中4名が出席でございますので、都市美対策審議会運営要領第13条第4項の規定により、成立となっております。本日の議事ですが、審議案件1件となりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、真田部会長、以降の進行をお願いいたします。</p> <p>（真田部会長）</p> <p>皆さん、こんにちは。また今年も、2年に1回やっているものの審議というかプロセスが始まるということで、改めてよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、まず、会議の公開について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>（立石書記）</p> <p>本日の部会ですが、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づきまして、公開といたします。傍聴に当たりまして、傍聴の方にお願いいたします。お手元の「傍聴に当たってのお願い」を守っていただきますようお願いいたします。また、傍聴される方のご理解・ご協力をお願いしたいと思います。なお、お願いを守っていただけない方にはご退出いただくことになりますので、ご承知おきください。以上です。</p> <p>（真田部会長）</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>2 議事</p> <p>（1）第12回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議）</p> <p>事務局から説明を行った。</p> <p>（真田部会長）</p> <p>ありがとうございます。では、審議事項の、スケジュールについて、選考方法について、リーフレット・ポスター・デザインについて、まとめて審議に入らせていただきます。どの部分からでも結構ですので、ご意見・コメントをよろしくお願ひします。</p> <p>（鴨下委員）</p> <p>質問ですが、今回のリーフレットの表紙の、四角のところの受賞作品の写真というものは、前回ではなくて、それ以前のものもあるということですか。</p>

(新井係長)

丸の中については、それぞれのポイントが分かりやすい受賞作を選んでいるので、必ずしも前回だけではなく、いろいろなものを選ばせていただいている。

(鴨下委員)

ありがとうございます。

(真田部会長)

そのほかございますでしょうか。

(三輪委員)

ご説明ありがとうございました。審査基準とかちょっと悩ましいところはありますけれども、広報なのですが、小学校と中学校には配るのに、高校に配らないというのは何か理由があるのですか。あと、私立も配つていいのではないかと思つたりします。つまり、私も娘が中学校で持つて帰つてきたことを思い出して、小学校・中学校はどちらかというと保護者が見ると思いますが、高校・大学ぐらいになると当事者になってきて、郊外の風景だったり、結構そういうのも出てくるのではないかと思つたりもしました。ただ、これだとちょっと分かりにくいというか、配るだけで本人たちがアクセスするかというと、そこは難しいですが、横浜らしさというのは難しいかもしれないけれども、こういう横浜市の取組を次の世代にというのは大事な観点だと思います。もうちょっと突つ込んでいくと、彼らだけが投票できるような表彰部門があつてもいいのかなと本当は思つてゐるのですが、いずれにしても、そこら辺にアプローチするのに、少なくともリーフレット配布先が大学と小中学校だけなので、もう少しそのあたりも押さえていただいたほうがいいのではないかと思つたりしました。

あと、その関係で言うと、多分、地域まちづくり部門のほうで過去に青葉区の高校生の居場所の拠点が受賞されてたりすると思います。そういうところに来ている子供たちは割と分かっているというか、表彰されているので分かっているわけです。うちも実はもらつてゐるのですが。なので、そういうところは多めに配つてきながら、彼らの視点で推薦してもらうように誘導する。というのは、具体的には青少年の地域活動拠点が横浜市に6か所か8か所かあると思いますし、公的なところでもありますので、その辺をもうちょっとフォローしていただくとよろしいのではないかなど。これはジャストアイデア的なものです。

(新井係長)

ありがとうございます。ぜひその辺は地域まちづくり部門と共同してやっていきたいと思います。

(三輪委員)

ぜひお願ひします。こども青少年局と教育委員会との調整だと思いますので、お願ひいたします。

(真田部会長)

そのほかいかがでしょうか。なるべく推薦とか応募を増やそうということが重要かなと思っていまます。それで、先ほど説明のあった、推薦した後、特に何も要らないですよという話をコメントするのは、それは難しいというのは分かったのですが、この間、事前の打合せで、はがきのリーフレットのほうで、去年のものと比べていただくと分かりますが、「応募者」と書いてあるところを「応募・推薦者」に変えてもらって、推薦する場合に名前を書こうと思ったら「応募者」と書いてあって、いや、応募じゃないよみたいな感じにならないほうがいいなと思って、そういうふうになるべくハードルを下げるようなことをやつていただきました。そのほか、応募が増えるためのものだったり、例えばその前のときにやつてもらったのは、「まちなみ景観ってどんなもの?」という説明を加えてもらって、どういうものが表彰対象になるのか分かりやすくしてもらうという変更を加えていただいたりしましたので、そういう観点から何か意見やアドバイスみたいなものがありましたら、言っていただけるといいかなと思います。

(三輪委員)

その観点だと、過去に問合せみたいなのはないのですか。分からんんですねみたいなのとか、こういうのは該当しますかという問合せみたいなものは過去にありましたか。なぜかというと、例えば「景観の名称」というのも、景観の名称と聞かれて何て書くのだろうと。分からん、難しいかなと。施設の名称とかだったら分かりやすいのですが、施設ではないし、場所の名称というのもちょっと違うし、どういう書き方をしていいのかが分からぬのではないかという感じもあります。付近の案内図というのはまあまあハードルが高そうだし、取りあえず事務局がこのことだなど分かればいいとは思いますが、それにしても少し誘導する言葉が堅い気も。

(新井係長)

ちょっとハードルが高そうというか、悩んでしまいそうな書き方ですか。

(三輪委員)

そうですね。

(真田部会長)

伝わればいいわけだから、正式名称でなくてもよくて。

(三輪委員)

そんな堅いものではなくて、「それはどの辺にありますか」みたいなそんな問い合わせなのですが、そういうほうがいい気もします。付近の案内図とかは、住所がしっかりと書かれていれば書かなくてもいいのですよね。

(新井係長)

はい。

(三輪委員)

今までそういうものもあるのですよね。

(新井係長)

そうですね。皆さん本当にきっちりきれいに書かれているかというと、やはり問い合わせないと分からないようなときもあつたりします。

(三輪委員)

先ほど問合せをしていくというお話を聞いていたのですが、これは全部確認するのですか。分からぬのだけ確認するのですか。

(新井係長)

全員に確認の電話をしているわけではないです。

(事務局)

よろしいでしょうか。前回で言うと、はがきは10枚にも満たないぐらいです。場所が分かれれば、もうそれで1件と数えています。あと、残りは電子申請が多かったので、そちらの項目ははがきと多少違っていたりはするのですが、場所が分かるように図面をつけてくださいということも特に言っていません。

(三輪委員)

何か前に、ここからのこんな風景みたいな応募がありませんでしたか。我々の審査の対象にはならなかつたのですが、応募のされ方が、ここから見えるこの風景みたいな。

(事務局)

大さん橋とか、そういう写真を応募された方も何名かいらっしゃいました。

(鴨下委員)

これはどれぐらい刷って配るものなのですか。

(事務局)

1万枚です。

(鴨下委員)

それで10枚だと、ちょっと寂しいですね。

(事務局)

リーフレットを見て電子のほうで、QRコードを読み取って応募するという方もいらっしゃいます。リーフレットを手に取って、こういうのがあるんだなというのを知っていただくというのが一番の役割かと思っています。

(新井係長)

鉄道駅のPRボックスは結構はけるので、割とすぐになくなってしまいます。皆さん手に取りやすいのかなと思います。

(三輪委員)

でも、文字は大きくなつて見やすくなつたと思います。

(真田部会長)

そうですね。

今のリーフレットの案というのは、こういうふうに変えますということの後にデザイナーさんが入つたりするのですか。

(新井係長)

基本的には今回皆様から頂いたものと、地域まちづくりの部会から出たご意見でまた調整させてい

ただいた上で、特に大きくデザイナーを入れて案を変えるということはしないです。その調整だけです。

(真田部会長)

いや、何か丸のところがずれていたりとかするような。

(新井係長)

デザインの調整はできます。そういう意味でのデザインの調整はもちろんできます。

(真田部会長)

ちょっと気になるところがいろいろ。

(新井係長)

どの辺のところが。

(真田部会長)

丸のところが多分、写真下がちょっと切れている。ここです。ここの写真が切れていています。

あと、少し色味が濃過ぎるのではないかと。上の「人・まち」の青と赤に比べるとちょっと濃いかなど。

(新井係長)

そうですね。これは、デザイナーに調整はしてもらえるので大丈夫です。

(真田部会長)

それ以外に、こうしたらよりよいのではないかという。リーフレットとかポスターの、応募を増やすという話で分かりやすくすること以外にも、先ほどちょっと出てきた、広報としてもう少しこういうことができるのではないかということに関してでもいいのですが。

(鴨下委員)

個人的には、選考基準がないじゃないですか。それで、受賞作品だけだと、何を応募したらいいのかとか、推薦したらいいのかというのが、素人だと、一般の人が分かるかなと。前は選考基準というのがあったじゃないですか。これもないですか。

(新井係長)

「選考の視点」が中面にあります。

(新井係長)

皆様のお手元にあるものは、実際のサイズに合うように印刷をしたので、印刷時に周りの縁が切れてしまっています。実はその切れている下の部分にGREEN×EXP0のバナーを入れる予定になっております。今、皆様のお手元にあるのはバナー部分が切れて全く何も入っていないように見えるのですが、うっすら影がありまして、実はこれは折ったときの一番後ろの面で、前回の受賞作の下のところにGREEN×EXP0のバナーが入る予定で、今回、デザインとして新たに追加しております。

(立石書記)

前回のリーフレットのまちなみ景観部門とか地域まちづくり部門という表現が入っているところにGREEN×EXP0のバナーが入ってくるということになります。

(新井係長)

そちらは本市の事業ということで入れさせていただきたいと思っております。

(三輪委員)

GREEN×EXP0はいつでしたか。

(新井係長)

2027年3月からです。

(三輪委員)

ということは、再来年の3月。

(新井係長)

一応、再来年度、表彰式の年度末から始まるような感じではあります。

(三輪委員)

その次に応募されるかもしれない案件かなと思って聞いていたのですが、どちらなのだろうと思って。地域まちづくり部門なのか、まちなみ景観部門なのか、ちょっと分かりませんが。

(新井係長)

それはちょっとまだ先になります。

(三輪委員)

いや、そうしたら瀬谷区に1件入るなと思ったのです。今、瀬谷区がゼロだから。

(新井係長)

そうですね。瀬谷区はまだ受賞していないです。

(青木委員)

推薦者の方の属性というのか、どういう方がこれに推薦されるか、そういうのはつかめないのですか。ハードルを下げるといったときに、一体こういうものをどういう分野の人たちが関心を持ってやっているのか。単純に広く市民にというようなものなのかなと。先ほどの、選考の基準が非常に幅広いなという、私の感覚もそうなのですが、割と建築とか都市計画とかをやっている専門の人たちだと取つきやすいとは思うのですが、そこからどのぐらい裾野が広がり得るのだろうというのが少し気になります。これはお名前だけですよね。お名前だけで申し込んでいるから、どういう仕事をしている人たちがやっているのかとか、まちづくりに関わっている人なのか、そうではなくて学生なのかとか、その辺の属性が分からぬ中でどういうふうに裾野を広げていけるのだろうというのは、少し考えあぐねているところです。

(三輪委員)

少しそういうのをリサーチする方法を考えて、例えば年齢も書いてもらうようにするとか、何歳代とか。割とまちなみ景観部門のほうはシニアの方が多いようなイメージがあるのですが、任意で書いてもらうようなことがウェブだったらできますよね。以下についてはとか。

(新井係長)

電子申請のほうに、以下はもしよかつたら答えてくださいみたいな感じで。

(三輪委員)

学生なのかとか、それぐらいリサーチをそろそろかけてもいいのかもしないですね。

(鴨下委員)

今回の応募をどこで知りましたかみたいなアンケートがあるじゃないですか。

(新井係長)

それは載せさせていただいています。

(鴨下委員)

それで集計をするということですか。

(三輪委員)

「学校」というのがあります。

(鴨下委員)

今まで集計みたいなことは別に、聞いているだけでやっているというわけではないですか。

(事務局)

何で知ったかという集計は以前はだしていたということはありました。

(三輪委員)

大体、知り合いかからとか、頼まれたというか、応募が足りないからって行政の人が来たりとか。まあまあ四苦八苦されている印象はあります。

(事務局)

第11回は、集計は取っていませんが、エクセルになっているので取ろうと思えばできます。

(青木委員)

前回の個票を拝見していると大体、応募件数1件という形なので、複数の推薦が集まっているというよりは、誰かが推薦したらもうそれが1つの個票になって、複数のものを省いたとして、それで40～50ぐらいの応募なのかと。それって数として見たときにどうなのかなというのは若干思います。

(新井係長)

応募総数と応募件数の差がそれほどないとなると、あまり重なっているところはないです。確かに前回のときも、多く重なっているような案件はなかったです。

(青木委員)

前回の金沢八景だったり、どうしても公共のものなんかは複数集まりやすいと思いますが、民間のビルなんかは多分、誰かが推薦したらそれがそのままという感じのかなという印象は持ちます。100件を超えていたときからここぐらいまで数字が落ちているということは、コロナ禍以外の何があるのかなと、ちょっと思ったりはします。

(三輪委員)

仮に市民投票みたいな仕組みというのは投入できないですか。すごく大きなことを言っているのですが、我々が最終審査をするのに、みんなはどう思ってのかみたいなことを参考的に聞けるよう

な、ウェブ投票ではないですけれども、一回そういうのをやってから。それは別に我々の審査に大きく影響しないけれども、応募した人と、それをみんながどう思っているかということを市民の方々に聞くようなワンクッションがスケジュール的に入ると、ちょっと肩の荷が下りるというか。今のお話を聞いていたら、やはり限定的な絞り込みなので、私は大体分かるのでいいのですが、確かに一般の方にしてみればすごく専門的なところがあって、あれって何だみたいな話も出てきてしまつて。それが悪いわけではないのですが、こういうものが応募されましたということをお知らせする。投票までいかなくともいいのですが、一回ワンクッションみたいのがあって、それでみんなどう思う?みたいな、別にそれは審査に影響しませんみたいな、でも、そういう一度オープンにするようなワンクッションがあるというのも一つ考え方なのかなと思つたりしました。

(新井係長)

応募されたものを全部一回オープンにする感じですか。

(三輪委員)

こういうものが推薦されましたみたいな。それってしてはいるのですか。

(立石書記)

写真は撮りに行きますので、撮ったデータだけで、ホームページ上でこういう応募がありましたという紹介はできます。

(三輪委員)

紹介でもいいような気がします。今は決まったことしか、要は我々が選定したものしか世に出ない状態ですよね。何回も応募されているものもたしかあったような気がするので。

(新井係長)

逆に、応募されたけど落ちているというのは分からぬ状態に今はなついているので、もしかしたら自分が最終的に選定されなかつたというのは全く分からぬ状態です。

(三輪委員)

でも、誰かがこれをすごく評価してくれるんだというのは、意外にうれしいかもしれないし、別に我々が票をあげなくとも見てくれている人がいるみたいな話で言えば、そういう紹介がワンクッションあると、もうちょっと関心が高まるような気もします。

(青木委員)

それか、思い切って市民投票枠をつくつたら。選定ともう一枠そういうのがあるとか。

(三輪委員)

市民投票枠だったら子供たちが参加しやすいと思います。高校生以上とかにすると、結構ちゃんと考えたりするかなとも思います。

(青木委員)

その場合、評価の在り方を子供たちがどう理解できるかという問題もありますよね。

(真田部会長)

それは組織票というか、1人で何票もというのも考えられるし。あと、基本的に民間のものだから、知らないところで勝手に推薦されていて、知らない間に情報が出ていて、今もそうですけれども、受賞してから外に出るからそれはいいのですが、推薦されただけで受賞もしなかつたのに情報だけ出ちゃつたみたいになると、ちょっとどうかなと思います。

(三輪委員)

そうですね。公表するには、そこはやはりちょっと調整してもらわないと。ただ、推薦してくれた人がいるというのは、1件でも大事にする必要もあるかもしれません。ちょっと分からぬですが。

(青木委員)

そうですね。たつた1人の推薦があつただけで突然ウェブに公開されるというのは、ある程度やはり基準を設けないと、そこは厳しいかもしれません。

(真田部会長)

そうですよね。公共のものだったり、事業者も大きい会社がやっているものとかだったらいいのですが。

(三輪委員)

個人の得という場合もありますよね。

(真田部会長)

そのあたりは慎重に考えるべきかなと。これからすごく簡単にやれることとしては、都市美対策審議会の大学の先生とかに学生に周知してくださいという、個人的にというかそういうことをメールで

お願いしてそこにURLとかをつけておけばそのまま学生に流しやすいので、そういうことはやっていただいたらいいのではないかと思います。

(新井係長)

ありがとうございます。

(青木委員)

美術館、博物館施設なんかに送っていただいても。基本的にうちなんかにも歴史好きの人たちが来るので、そういうので関心を持って手に取っていただけるといいのではないかでしょうか。

(新井係長)

ありがとうございます。ぜひよろしくお願ひします。

(立石書記)

あらゆるつながりを使ってやっていきたいと思います。

(新井係長)

確かに、どこに関心をお持ちの方がいらっしゃるのかがはつきりしないというところでは、できるだけいろいろなところに広げていきたいと思います。

(立石書記)

掘り起こしをしないといけないなと思っておりましたので、貴重なご意見ありがとうございます。

(三輪委員)

大学・都市パートナーシップ協議会の事務局経由で大学に行くよりも、ピンポイントで建築学部とかの事務局に送ってしまったほうがいいです。大学の建築学部の皆さんに配ってほしいみたいな。パートナーシップだと本部の総務とかに行ってしまって、これ、どうしようみたいな感じで、その辺の学生リーフレットのところにぽんと置かれるみたいな状態が起こるので、本当にピンポイントで建築とか、それこそ都市計画とか、まちづくりとかはもう絶対押さえて。

(真田部会長)

そういうところの事務室とかにポスターとかをやれば、そういう学生がうろうろするところに貼つてもらえるので。

(三輪委員)

製図室とか。

(新井係長)

できるだけピンポイントで、狙いたいところにご連絡するようにしたいと思います。ありがとうございます。

(真田部会長)

ほかにございますでしょうか。

(三輪委員)

高校も工業高校や、総合高校とかも今、結構こういう街並みをすごく学んでいます。学校の授業の中で地域で出ていくことが高校でも非常に多くなってきているので、神奈川総合高校とか、みなと総合高校とか、高校をもうちょっと押さえてもいいと思います。

(新井係長)

確かに小中学校は、ご自宅にお持ち帰りになられるご家庭が多いかなと思って。

(三輪委員)

多分、机の下に入ってると思います。よくある、子供出さない案件です。自分に関係ないと思って、しまっている。

(真田部会長)

宿題でもないし。

(三輪委員)

親に見せるものかなみたいな。

(真田部会長)

では、いろいろご意見が出ましたので、事務局のほうからまとめをお願いいたします。

(立石書記)

ご意見いろいろありがとうございました。特に応募総数を増やしていくことが大事なので、いろいろなつながりとか掘り起こしをしていくことで、我々も可能なところをこれから検討しまして、そういうふうに進めたいと思います。今日頂きましたご意見を基に、事務局で選考方法やリーフレット・ポスター・デザインについて検討いたしまして、来年1月

	<p>の地域まちづくり部門との合同部会で改めて提案させていただくというふうに考えております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>(真田部会長)</p> <p>では、以上で議事（1）は終了となります。</p> <p>(2) その他</p> <p>(真田部会長)</p> <p>その他、事務局から何かありますでしょうか。</p> <p>(立石書記)</p> <p>ほかには予定しておりません。</p> <p>(真田部会長)</p> <p>分かりました。それでは、これで予定された議事は全て終了しました。</p> <p>次回の日程について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(立石書記)</p> <p>次回は地域まちづくり部門との合同部会となります。令和7年1月29日10時から、市庁舎にて開催する予定としております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>あと、本日の議事録ですが、横浜市都市美対策審議会運営要領に、審議会があらかじめ指名した者の確認を得ることとすることができますので、作成後、真田部会長に確認いただいた上で公開といたします。</p> <p>3 閉会</p> <p>(立石書記)</p> <p>これをもちまして、第24回都市美対策審議会表彰広報部会を終了いたします。ありがとうございました。</p>
--	---

資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第、名簿、座席表 ・資料1 : 横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門の概要について 別添：記者発表資料、表彰式の様子等 ・資料2 : 第12回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール（案） ・資料3 : 第12回横浜・人・まち・デザイン賞 まちなみ景観部門の選考方法について（案） 別添：個票（案） ・資料4 : 募集に関する広報について（案） 別添：第11回募集リーフレット、ポスター ・資料5 : 横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門 表彰対象区一覧 別添：まちなみ景観部門受賞作品地図 ・資料6 : 事前意見に対する対応について ・資料7 : 第12回横浜・人・まち・デザイン賞リーフレット、ポスター（案） ・参考資料1 : 表彰広報部会設置要綱 ・参考資料2 : 横浜まちづくり顕彰事業実施要綱 ・参考資料3 : 横浜まちづくり顕彰事業実施細目
特記事項	